

熱気あふれる予定候補の事務所開き開催

12月に開いた舟木事務所

昨年12月12日、東津田町の中島ビル（津田小近くのファミマ向かい）1Fの事務所で舟木けんじ事務所開きを行い



舟木事務所開き集う後援会員

ました。夕方6時からという時間帯にもかかわらず、ほとんどの支部からと後援会員さんも含めて36名の参加がありました。

安部紀正責任者からの開会あいさつの後、事務所に近い西山団地の自治会役員さんに続き、中林よし子元衆議院議員、尾村利成県議、吉儀敬子市議から力強い激励の挨拶がありました。



囲む集いで挨拶する たちばなふみ市議予定候補

選挙勝利で必ずバトンタッチを

「たちばなふみを囲む集い」開催

「市民誰にも光のあたる市政をめざす」との市議選を勝ち抜く決意が力強く語られました。

参加者からも次々と候補者とのかわりや人柄、頑張るのかかわりや人柄、頑張る

務所開きとなりました。

松本都子事務局長の軽快な司会で、明るく元気の出る事務所開きとなりました。

「弱立場の人のため頑張る」と、「不条理とたたかう熱い人」「女性候補者に期待」など熱い思いが語られ、コロナ対策で参加を見合わせた介護現場の友人からもメッセージが寄せられました。

吉儀敬子市議、橋祥朗市議は、党の3議席の値打ちを強調。全員でフォークソング「一人の手」を歌い、岩本選対事務局局長は「みんなの力が集まれば強くなる、頑張ります」と訴えました。

最後に、柏木利徳八束の会事務局局長が「大いに対話を広げよう」と提案し、参加者は拍手で決意を固めました。

1月24日（日）、事務所開設を記念した「たちばなふみを囲む集い」が八束公民館で開催されました。コロナ対策のため収容人数の半分に制限して開催、制限いっぱい各地域から支援者が集いました。

田中はじめ市議とおしゃべり&町の医療現場の声を聞く集い開催

日本共産党城北支部は、1月24日、県民会館で、「田中はじめ市議とおしゃべり&町の医療現場の声を聞く集い」を開催しました。

まず田中市議は、「コロナの犠牲者が5千人を超えた。政府の無策の犠牲者というべき。入院できず自宅待機者は3万5千人。ところが、入院拒否等に罰則という支離滅裂な感染症法改定案。菅政権を替えないと命を守れない。」と訴えました。

続いて田中市議は、共産党市議団が起案した普通教室へのエアコン設置の意見書案が全会派共同の提案となり全会一致で可決された経緯など、4年間の議会活動を報告し、



参加者に報告する田中はじめ市議

その後、医療従事者の方から、市内の現状と課題の報告がありました。その中で、医療関係者への給付金が支給されたが、その分ボーナスが減らされた例もあることが報告され、病院経営と医療労働者への支援の拡充が急務であることが明らかになりました。

参加者から北道路問題、再生エネルギー普及の進展、野党共闘の推進等、多くの意見が時間いっぱい出され、交流しました。

市民と共に歩んで

不登校の子の力になりたい 舟木けんじ



ざいそう

一昨年11月、私に関わる県教職員組合と市内二つの「親の会」のみなさんと共同で、「不登校支援」を考える講演会を企画しました。チラシを見て悩んでいる保護者からメールやファックスで参加申し込みが続々と届き、当日は保護者、教職員ら86名の参加で会

場はいっぱいになりました。中には、不登校の友人を氣遣い参加してきた中学生の姿もあり感激しました。講演会では親の立場、教職員の立場からたくさん悩みや切実な要望が出され、後日それらをまとめて親の会の皆さんと共に、市教委申し入れも行いました。

私の娘も小学生で不登校になりました。親子ともに悩んだ日々を思う時、不登校に悩む子どもたちの力になりたいという強い思いがあります。娘は学校に行かない日々の中でゆつくりと元気を回復し、自分の道を歩んでいきました。不登校を本人や家庭の責任とするのはまちがいです。その背景には、競争と自己責任を迫る今の社会の息苦しさがあります。子どもや親を追い詰める施策を見直し、不登校の子どもの学ぶ権利を保障し、公的支援の拡充をすすめることが必要です。

総選挙と市長・市議選勝利で、すべての子どもたちが自分らしく生きることのできる社会の実現をめざしてがんばる決意です。